

1 実践事項(今年度の実践)

魅力ある学校づくりの実践 ～すべての児童を巻き込んだ児童会活動の工夫～

2 実践内容

児童が学校に登校するのが「楽しい」と感じ、積極的に活動する学校・学級集団作りをめざし、学校・学級の中で全児童が生活できるよう、支持的風土の4つのポイントを生かした児童会活動をめざす取り組みを行った。

(1) 児童会活動に向けての環境整備

- ①各学年に特別活動ファイルの配布(話合いグッズ、話合いの進め方等)
- ②児童会掲示板
- ③各学年用児童会掲示コーナーの作成
- ④児童会の取り組みの足跡の掲示
- ⑤児童会行事に関しての学校共通ワークシートの作成

(2) 児童による発意・発想を生かした活動計画の作成

教師があらかじめ作成した基本的な枠組みとしての年間指導計画を基に、児童が具体的な活動計画を立てられるように、児童が発意・発想を生かして作成した児童会の活動計画を児童が作成した。

(3) 代表委員会の工夫

- ① 今年度から代表委員会を2部構成で行った。1つは2年生以上の級長・副級長を参加対象に、児童会の取り組みについて学年・学級での取り組み方や伝達等を行った。
- ② 全児童で話合い、深めていくことを目指しているが、限られた時間で行う代表委員会では課題があるため、事前に議題や話し合う内容等の書かれた案内状を配布し、実際の代表委員会では各学級で考えてきたことをすぐに共有し話合いができるようにした。決まったことは、児童会新聞や児童会掲示板を活用し全児童にも周知した。



図1 児童会活動の足跡



図2 児童会掲示板

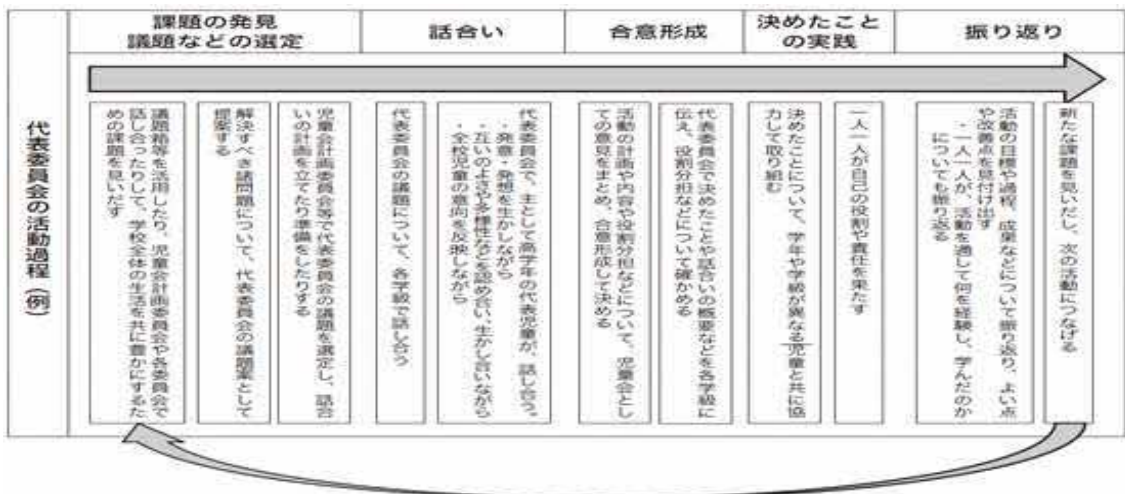


図3 代表委員会の活動過程

3 説明資料(写真、グラフ、図、表など)

☆具体的な例☆

全児童を巻き込んだ「一年生を迎える会」の実践～一年生を笑顔にするには?～

1年生を迎える会では ①2～6年生 ②各委員会(6年生)を対象に代表委員会を開き、ねらいの確認と役割分担を実施しねらいと役割分担を話し合った。このねらいの確認と役割分担の共通確認をおこなうことで児童の参画意識をうながし、児童が中心となる行事になるように実践をした。児童は自分たちの意見が反映された迎える会に積極的に参加し、迎えられる新入生、迎える在校生がひとつになった行事が開催できた。



図4 1回代表委員会(各委員会)



図5 第2回代表委員会(2～6年生)



図6 第3回代表委員会(最終確認)



図7 委員会ごとで役割分担



図8 一年生を迎える会当日①



図9 一年生入場の様子

また、この全校児童を巻き込んだ「一年生を迎える会」の活動から児童会を中心に取組を継続して、「児童会テーマの作成（全児童へのアンケート実施）」、「学校のマスコットキャラクターの作成」等を行い児童の児童会活動への参画意識の高揚をはかった。



図10 児童会活動の合言葉



図11 マスコット「つかキラビ」

4 成果

- 高学年だけの取り組みではなく、学校全体で児童会活動に取り組む意識が高まった。
- 児童会行事に関して、各委員会と連携して行ったことにより責任を持って取り組む児童が増えた。

5 課題

- 今後の継続した児童会活動の取り組みの仕方。担当教師(委員会担当)との連携。
- 活動の「ふりかえり」を次の活動へどうつないでいくか。